

この本の使い方

疾患別・検査値活用のポイント

疾患の主要検査

疾患の診断に必要な主要検査と異常値が一目でわかります。


疾患別・検査値活用のポイント

慢性胃炎

原因 ・大部分がヘリコバクター・ピロリ菌の感染
・自己免疫的機序の関与 など
診断 ・胃粘膜の萎縮が認められる
・上部部に疼痛や不快感 など

慢性胃炎の診断・検査

胃粘膜が炎症を起こす疾患



慢性胃炎はピロリ菌感染などが原因で胃粘膜に炎症が起った状態です。

炎症を起こした胃の粘膜はどんな状態になるのか？

正常な胃粘膜
萎縮した胃粘膜

この状態を萎縮性胃炎といいます。

胃粘膜の萎縮
色が赤みを帯びる
粘膜の下の血管が透けて見える

胃粘膜の萎縮をすることで、胃の粘膜が萎縮しているのがわかります。

ペプシノーゲンは萎縮性胃炎の目安

血液検査で胃粘膜の萎縮を調べることはできないのですか？

胃の慢性的な炎症
萎縮性胃炎

ペプシノーゲンの値は萎縮性胃炎の目安となります。

ペプシノーゲンI/IIの低下

疾患の診断・検査

疾患の特徴と共に診断・検査をサクッと把握できます。

検査値からわかること

疾患ごとの検査値の意味と検査時に注意すべきポイントがわかります。

- ・本書では、様々な疾患を11章のカテゴリーに分類しました。
- ・各章は疾患と検査の関係を理解する【疾患別・検査値活用のポイント】ページと、その疾患カテゴリーでよく使われる検査データを理解する【検査データ】ページに分かれています。

検査データ

疾患カテゴリーごとに、よく使われる検査データをまとめました。それぞれの検査の基準値やしきみ、留意点を把握することで、検査値を読む力がアップします。

消化器系疾患
よく使う検査値

Helicobacter pylori

免疫学的検査

ヘリコバクター・ピロリ

ヘリコバクター・ピロリ菌の感染や除菌判定に用いる。

検査は内視鏡生検検査と、呼気中に大別され、6つの検査方法があります（詳細は下表参照）。検査精度を高め合わせることで、検査の精度が高まります。除菌判定は、除菌治療中止後4週以降に行います。除菌判定の際には、感度の高い尿素呼吸試験かモノクローナル抗体を用いた便中H.pylori抗原測定が適しています。

検査値のしきみ

検査は内視鏡生検検査と、呼気中に大別され、6つの検査方法があります（詳細は下表参照）。検査精度を高め合わせることで、検査の精度が高まります。除菌判定は、除菌治療中止後4週以降に行います。除菌判定の際には、感度の高い尿素呼吸試験かモノクローナル抗体を用いた便中H.pylori抗原測定が適しています。

検査時の留意点

- ・プロトンポンプ阻害剤や一部の抗菌剤増強薬などで偽陰性となることがあります。（抗H.pylori抗体検査を除く）
- ・萎縮性胃炎やMALTリンパ腫では、偽陰性となることがあります。

消化器系疾患
よく使う検査値

pepsinogen I

生化学的検査

ペプシノーゲンI

胃底腺領域の胃粘膜と胃酸分泌の状態を調べる。

検査値のしきみ

検査は内視鏡生検検査と、呼気中に大別され、6つの検査方法があります（詳細は下表参照）。検査精度を高め合わせることで、検査の精度が高まります。除菌判定は、除菌治療中止後4週以降に行います。除菌判定の際には、感度の高い尿素呼吸試験かモノクローナル抗体を用いた便中H.pylori抗原測定が適しています。

検査時の留意点

- ・プロトンポンプ阻害剤の使用により数値が上昇するため、検査前には1～2カ月の服用中止が必要です。
- ・腎不全により数値が上昇します。

消化器系疾患
よく使う検査値

pepsinogen II

生化学的検査

ペプシノーゲンII

胃粘膜全域の胃粘膜と胃酸分泌の状態を調べる。

検査値のしきみ

検査は内視鏡生検検査と、呼気中に大別され、6つの検査方法があります（詳細は下表参照）。検査精度を高め合わせることで、検査の精度が高まります。除菌判定は、除菌治療中止後4週以降に行います。除菌判定の際には、感度の高い尿素呼吸試験かモノクローナル抗体を用いた便中H.pylori抗原測定が適しています。

検査時の留意点

- ・プロトンポンプ阻害剤の使用により数値が上昇するため、検査前には1～2カ月の服用中止が必要です。
- ・加齢と共に数値が高くなる傾向があります。
- ・腎不全により数値が上昇します。

検査時の留意点

検査の際に注意すべき点や、踏まえておきたい事項をまとめました。

検査値のしきみ

検査方法や異常値が出るメカニズムの理解に役立ちます。